

## 子どもたちの育ちと心の安定

今号では学校生活での子どもたちについて、子どもの側の視点に立って考えてみました。

発達障害のある子どもたちには、心が不安定になってしまう原因がいろいろあります。その中から代表的なものをいくつか挙げて、シリーズで考えていきたいと思います。第1回は感覚過敏について考えていきます。

### 第1回 感覚過敏について

遠くからかすかに聞こえる救急車のサイレンや飛行機の音にすぐ気付く、野菜を炒める音に怖がって泣く、歯磨きをいやがる、シャワーをいやがる、服を着せても脱いでしまう、光をとってもまぶしがる、なんでも臭いをかぐ、食べられるものが限られている、などなど。これらは感覚過敏といわれ、発達障害のお子さんにはたいていこのようなもののどれかがみられます。このために、生活習慣が身につかなかったり、人のたくさん集まるような場所に行けなかつたりなど、いろいろな不自由さを抱えてしまいます。しかし、このことはなかなかわかってもらえず、むしろ、周囲の人から、わがまま、こわがり、おおげさなどと思われてしまいがちです。

例えば、舌触り、味、においなどに過敏に反応してしまって、食べることが苦痛であるにもかかわらず、偏食は悪であるという考えのもと、食べないことを許してもらえなかつたりするのです。食事はおいしく楽しくなければなりません。食べられるものを食べさせてあげて、お子さんとの間にくつろいだ楽しい時間を持つほうが大切です。話しかけるときは優しく、静かに、ゆっくりと話したほうが耳に入りやすいです。好みの肌触りの下着を着せてあげたり、タグを取ってあげたりすることも必要なことがあります。こうして、お子さんが人の営みの中に入って来られるようにこちらが工夫することが大切なのです。

(世田谷区発達障害相談・療育センター 相談・療育主幹 喜多 民子)

世田谷区発達障害  
相談・療育センター  
って どんどころ?

世田谷区在住の発達障害のある方、またはその疑いのある方、その家族、関係者を対象としています。また、世田谷区の発達障害に対する支援を推進するための中核的な拠点施設として関係機関への支援や、広く区民の皆様に、発達障害について理解してもらうための活動をしています。